

課題のAI耐性チェックシート

対象：セミナーA 領域B版 参加者

書き込み式・持ち帰り用

A4×1 枚

このシートの使い方 普段出している課題を1つ書き出し、実際にAIに解かせてみましょう。そのうえで下の4つの問いで採点します。1枚で課題を3つまで診断できます。

- ① 普段出している課題を1つ選んで課題記入欄に書く ② ChatGPT等のAIにその課題をそのまま入力して解かせる ③ 「4つの監査の問い」と「典型3型チェック」で診断する ④ 判定結果欄に記入し、再設計の要否を判断する

1 課題記入欄 — 診断する課題を書き出す（最大3つ）

課題 A

課題名・内容

教科・科目

本来測りたい力

課題 B

課題名・内容

教科・科目

本来測りたい力

課題 C

課題名・内容

教科・科目

本来測りたい力

2 4つの監査の問い — 各課題にAIで回答させた結果を記入する

No.	監査の問い	課題Aの回答欄	課題Bの回答欄	課題Cの回答欄
①	何秒で解かれたか AIが回答するまでの時間を計測する。 赤信号：30秒以内 → 丸写しが効く課題	 ☐ 30秒以内 ☐ それ以上	 ☐ 30秒以内 ☐ それ以上	 ☐ 30秒以内 ☐ それ以上
②	AIの答案は何点相当か 採点基準で点数をつける。合格点が付くなら評価として機能していない。	 ☐ 合格点以上 ☐ 不合格	 ☐ 合格点以上 ☐ 不合格	 ☐ 合格点以上 ☐ 不合格
③	本来測りたかった力は何か 「知識の再生」「思考」「表現」のどれか言語化する。 知識の再生 思考 表現	☐ 知識の再生 ☐ 思考 ☐ 表現	☐ 知識の再生 ☐ 思考 ☐ 表現	☐ 知識の再生 ☐ 思考 ☐ 表現
④	その力はAI使用時にまだ測れているか 「いいえ」ならパート2（再設計）の対象。	☐ はい ☐ いいえ	☐ はい ☐ いいえ	☐ はい ☐ いいえ

3 「30秒で解かれる課題」典型3型セルフチェック — 自分の課題は当てはまるか

☐ 型① まとめ型

例：「〇〇について200字でまとめよ」「〇〇の特徴を3つ書け」
AIが最も得意とする出力形式。そのまま丸写しされやすい。

☐ 型② 定型計算ドリル型

例：教科書例題と同パターンの計算問題の繰り返し
数値を変えても同じ手順で解ける。AIは手順を忠実に再現する。

☐ 型③ 要約・穴埋め型

例：教科書範囲の要約、本文を見ながら答えられる穴埋め問題
テキストが存在すれば即座に正答が生成される。

4 判定結果とネクストアクション

☐ このままでOK

①が30秒超 または②が不合格 または④が「はい」（AI使用時も力が測れている）
当面の再設計は不要です。定期的に再診断しましょう。

☒ 再設計を検討する

①が30秒以内 かつ②が合格点以上 かつ④が「いいえ」（AI使用時に力が測れていない）
再設計が必要な課題に印（★等）をつけ、下の欄に記入してください。

再設計が必要だと感じた課題と、変えたいポイントをメモしておく

★ **続きはセミナーB 領域B版で** 「再設計が必要」と判定した課題をどう作り替えるか、5つの再設計パターン（プロセス提出・個人文脈接続・AI出力の批判吟味・口頭確認・共同制作）を実習形式で学べます。

△ **注意** 検知ツール（AIが書いた文章かを判定するソフト等）は補助手段にすぎません。誤検知も多く、防御の本丸は**課題設計そのもの**です。このシートの診断を活かして課題を作り替えることが最も確実な対策です。